

本日の学び テーマ：「昔の人の言い伝え」テキスト：マルコ7章1節-13節

【理解の手がかりとして】

ファリサイ派と律法学者がエルサレムから来てイエス様のもとに集まった。そして彼らは見た。何を？・・・イエス様の弟子たちのある者が、洗わない手で食事しているのを。

ユダヤ人は、「昔からの言い伝え」（口伝律法）を守って、入念に手を洗ってからでないと食事をしなかった。また市場から帰った時には、体を清めてからでないと、食事をせず、なおその他にも、杯、鉢、銅器や寝台を洗浄するなど、習慣としていたことが沢山あった。そこで彼らはイエス様に尋ねた。「なぜ、あなたの弟子たちは昔の人の言い伝えに従って歩まず、汚れた手で食事をするのですか」（7:5）と。

ここで彼らが問うた問題、すなわち「手を洗わないで食事をする」というのは、決して「衛生上の問題」ではなかった。彼らが問題にしたのは、それが彼らにとっては至って「信仰上の問題」、もっと言えば、彼らが揺るがし得ない「律法」に抵触する大問題と考えたからであった。

彼らは神の前で清い者であるために、自分たちの生活から汚れたものを遠ざけようとしていた。中でもファリサイ派の人々は特に念入りにそれをしていた。そのような彼らにとって、多くの人々を集めて神の国の福音を説いているイエス様の弟子たちが、手を洗わずに食事をしているなど考えられないことだった。

ゆえにイエス様が言われた「あなたがたは神の掟を捨てて、人間の言い伝えを固く守っている」というのは、彼らにしてみれば、なかなか理解しがたいことだったと思われる。なぜなら、彼らは「私たちこそ神の掟なる律法に忠実だ」と考えていただろうから。

しかしイエス様が言いたいのは、その「神の掟（律法）」の本質、その真意をないがしろにして、形式的なうわべのことで人を裁いている、ということだったのではないか。マタイ福音書に記されるイエス様の言葉はこうである。「わたしが来たのは律法や預言者を廃止するためだ、と思ってはならない。廃止するためではなく、完成するためである」（マタイ5:17）。

「律法を完成するため」———そう、イエス様の言動の真意は、書かれている字面をただ守っていれば良い、といったような形骸化した生活、中身の伴わない空洞化した信仰ではなく、その精神をまったく生きること、そのことにあったのだと思われる。

さて本日の箇所、イエス様はファリサイ派の人たちの生活における矛盾、それは「神の教え」と実際の行動の矛盾を指摘なさる。それが10節～13節のところ。そこで引用されるのは、有名なモーセの十戒の第五の戒めである「あなたの父母を敬え」（出エジプト20:12）。十戒は律法中の律法。しかしその教えに対して、彼らはその生活の中で矛盾を抱えていた、という。その矛盾とは、「コルバン」に関すること。

「コルバン」とはヘブライ語で「供え物」という意味だが、彼らは、人が「コルバン」という語を用いて誓いをした場合には、たとえ、その指して誓ったものが両親の扶養に必要

な物であっても、その取り下げを認めなかった、という。これは、余りにも形式的に過ぎている、人の倫理よりもその儀式を重んじていた彼らのあり方の問題を鮮明に映し出すものである。

同じような態度が、「安息日」を巡ってもあった。「安息日を心に留め、これを聖とせよ」（出エジプト 20:8）——この安息日の戒めの本意、つまり神の真意は、「命の休息（休み）」にあるのだが、しかしその形式にとらわれた人々は、「安息日を守れない者はけしからん！」と、その戒めを裁きの材料としてしまっていた。ここにも「神の掟（律法）」の本質、その真意をないがしろにして、形式的なうわべのことで人を裁く、当時の宗教指導者たちの問題があった。それに対してイエス様はこう言われた。「安息日は、人のために定められた。人が安息日のためにあるのではない」（マルコ 2:27）と。これは「成文律法」への挑戦（口伝律法への挑戦よりもはるかに重大）のように受け取られても仕方がなかったであろう。

ここであらためて押さえておきたいことは、問題とされた「手を洗わない」という問題は、単に律法（それを守ろうとする言い伝え）を順守する・しない、の問題ではなくて、それによって人を差別すること、「清い」とか「汚れている」とか区別してしまうこと、そういう問題だということ。

そしてその「汚れ」は、決して外的要因によるのではなく、人の内的要因、その心から生まれるのだ、と言っておられる。イエス様は言われる。「人から出て来るものこそ、人を汚す。中から、つまり人間の心から、悪い思いが出て来るからである」（7:20-21）と。人間社会の「差別」の問題、その根っこについて深く考えさせられる。

（聖書教育より）

「私たちの周りに、いつの間にか本来の目的が見失われ、形式だけが残ってしまったような『決まり』や『伝統』はありませんか。また、良かれと思って守っているものが、知らず知らずのうちに誰かを排除したり、共に生きる道を閉ざしたりしていないでしょうか。」
（大人クラス）